

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100261		
法人名	一般社団法人 米内地域支援プラザ		
事業所名	グループホーム やまぼうし桜台		
所在地	岩手県盛岡市桜台二丁目18番2号		
自己評価作成日	平成27年11月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100261-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成27年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 内部、外部研修による職員の知識、技術、常識の向上 社訓である整理・清掃・整頓の徹底
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して3年の経験と人材の採用等を図りながら体制強化を図り、利用者ケアの充実を目指している。特色として、1階に「カフェラウンジ」を整備し、併設の有料老人ホームやディサービスとの交流をしているほか、近隣住民の集まりや話し合いにも開放し、施設を地域の身近な存在として活かしている。また、運営推進会議では開設以来、毎回、「感染症対策の徹底」、「地域交流」、「水分補給」、「グループホームの役割と機能」等といったテーマを定めて話し合いを行っている。地域とは幼稚園児やボランティア団体等の来訪、地域のお祭りに参加など、地域との繋がりを重視した取り組みを目指している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・やまぼうし「社是」を設定し、会議等で共有している。	利用者の住みやすい環境づくり(①整理・整頓・清掃)や、職員間の情報共有(②報告・連絡・相談)、話し合い(③グループミーティング)の三つを「社是」とし、日頃の話し合いや、2カ月1回職員が参加する定例会議で確認と共有を図っている	社是内容は、スタッフのいわゆる業務視点から見た重要な内容であるが、更に一歩進めて介護保険制度の根幹である利用者本位のケアの視点にたった理念をスタッフ間で話し合っで定めることも、重要と思われるので一考されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の幼稚園や老人クラブ等を通じ、交流を深めている。	中学生の体験学習の受け入れや、中学校運動会や文化祭への見学、幼稚園児の来訪、町内会の運動会への参画、趣味グループの来訪交流など、様々な交流を図っているほか、施設内にあるカフェラウンジを地域交流の場として開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所をオープンにし、積極的に見学者を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・推進委員の意見を参考に現場のサービスに活かしている。	会議では活動報告のほか、毎回「認知症の具体的な行動」、「水分補給」といったテーマを定めた特色ある取り組みをしている。また意見交換では「幼稚園、中学校等の体験受け入れを今後も継続すること」等といった意見、助言を受けている。	毎回、テーマを定めた話し合いは、今後も継続実施を期待するほか、事業報告の際は、入居者の利用変化や、研修実施状況、地域行事・事業所行事の取組み、ヒヤリハット・事故発生状況など、データ提供による報告が重要と一考する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域包括支援センターとの連携を密にしている。	主として地域包括支援センターとの連携を図り相談しながら対応をしている。なお、行政との連携は少ないが、介護認定や更新など対応に伴う行政との相談、協議を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・個人の尊厳を尊重しながら、ケアに取り組んでいる。	1階は併設する有料老人ホームで、2階はグループホームとなっている。一階と行き来する時には、エレベーター利用と階段利用があるが、安心安全の面から階段は利用せず、主としてエレベーター利用である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待の実態を理解しながら、ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・今後、必要性を充分に感じているので、積極的に学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・朝礼、終礼時に	利用者とは日常の会話などを通じて、また家族とは面会時やプラン説明時に意見や要望を聞くようにしている。聞いた意見等についてはミーティング等で検討し活かすように努めている。	いつも家族が来訪される方は問題ないが、遠方の方には、利用者の健康面や介護、看護にかかる状況を、例えば、「やまぼうしお便り」として提供し、その際、家族から意見、要望を聞く方法を採用することも一考である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		申し送りやミーティング、職員会議等を活用し、職員からの提案を活かしている。例えば、酸素濃度測定器を購入し、利用者ケアのヘルスチェックに活用している。そのほか、外出支援のため、車いす用送迎車両の整備を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・常に修正するよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・最重要課題として捉えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他事業所への訪問を適宜実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・要望など、注意深く拝聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・特に、身体関係について拝聴している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・大事なことであり、特に些細なこと柄に注視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・最も大事な事柄に捉えている。これからも、家族との横の繋がりを深めて参りたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・これからも、支援に努めたい。	幼稚園児やボランティアの方々の来訪は回を重ねることに親しみを増しているほか、また、1階の有料老人ホームやデイサービス利用者との交流をも深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・これからも、支援に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・今後も耳を傾けて参りたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・大事なことであり、本人に軸足を置き努めて参りたい。	スタッフも3年目を迎え、利用者とのコミュニケーションにも慣れ、利用者との何気ない会話から本人の気持ちや希望などを聞いたり、推測したり、また利用者同士の会話や入浴時、散歩を通じて利用者の思いをきいて活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・今後のためにも、情報把握に努めたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・今後とも敏感に反応したい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・こまめに、職員間のミーティングを実施し介護計画に反映したい。	家族の意向と複数のスタッフによるモニタリング結果を踏まえながら介護計画を作成している。居室担当制は採用しておらず、計画作成担当者が、介護記録や申し送り、ミーティング等を参考に現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・職員間の情報を共有したい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・多面的なサービスに心掛けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・訪問診療を重点としている。	医療受診は、利用者・家族が希望するかかりつけ医であるが、利用者の希望により協力医療機関に変更する例もある。訪問診療を利用している利用者もいる。緊急時対応として医療機関の協力を得て普段から健康面の指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者個々の身体を細かく把握し、受診に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・積極的に関係作りに意を砕いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・今後の課題として、捉えている。	看取り対応指針を整備しており、重症化は主治医に相談し指示を受けながら対応しているほか、看取りを希望する家族がいるため、協力病院と連携協力を得ている。今後、ホームの適切な対応を図り慌てることのないようするため職員の学習を図ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・今後の課題として、捉えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・計画的に実施している。	スタッフのみの通報訓練等を行なっているが、調査時現在、消防署の立会による訓練は実施していない。今後、消防署立会の訓練、夜間想定訓練、更には地域の支援・協力体制を得たいとしている。	当施設は2階にあるためエレベータ又は階段利用の避難となるが、消防署立会の下での訓練や、夜間想定訓練、シュミレーション訓練が大切である。加えて地域の協力が得られる仕組みづくりに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・当然のこととして、対応している。	人生の大先輩という認識のもとでの利用者の尊厳を第一に考え、言葉遣いや言葉掛けに留意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・当然のこととして、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・当然のこととして、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・当然のこととして、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・当然のこととして、対応している。	食材の購入や、食事づくりは職員が対応しているほか、菜園での野菜作りや、食事に関わる準備や後片付けなどの役割の発揮も少ないとしている。なお、週2回のおやつづくりは、スタッフと一緒に作っている。	厨房での利用者と一緒に調理、茶碗洗いなどは構造上、難しい面もあるが、食事づくりや後片付け等の何らかの役割の発揮が楽しみやお互いの会話のきっかけが期待できると考えるので一考されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・当然のこととして、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・当然のこととして、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・当然のこととして、対応している。	落ち着かない表情や動作が見られたとき、早めのトイレ誘導により失禁が少なくなり、成果を挙げているとしている。日中はリハビリパンツやパット利用が中心で、本人希望で夜間はおむつ利用もいるが、殆どトイレ排泄である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の記録を基に、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・当然のこととして、対応している。	入浴は週2回で利用時間帯は利用者の希望により午前又は午後とし、殆どの利用者は入浴介助を必要としている。入浴中は普段より会話が弾み、良いコミュニケーションの機会として大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・当然のこととして、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・毎日の記録を基に、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・当然のこととして、対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・当然のこととして、対応している。	近くを散歩したりする外出の機会は少ないとしている。なお、1階のカフェラウンジでお茶会をしたり、デイサービスの利用者との交流を図ったりしている。時には、家族の協力を得ながら買い物や外食などに出かけている。	経年とともに車椅子利用者が増えており、また外出の機会も少ないとしており、健康保持、気分転換の観点から外出対応への取り組み工夫、改善に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・慎重に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・当然のこととして、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・当然のこととして、対応している。	1階は有料老人ホーム、2階はグループホームの併設施設で、建物全体の雰囲気は優雅さと穏やかさを醸し出している。食事や集いの場である共用ダイニングの大きな窓からの眺めは心地良い。社是の整理・整頓・清掃の考えを活かし、周辺の側壁等には、写真等を貼らず清楚な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・当然のこととして、対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・当然のこととして、対応している。	居室は、壁掛けテレビ、クローゼット、介護ベッド、空気清浄機が備え付けられており、緊急時を知らせるためのナースコールが設置している。家族写真などを飾り、一人ひとり心地よい暮らしができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・当然のこととして、対応している。		